# 壱岐空港

壱岐空港は長崎県北方海上の玄海灘に浮かぶ壱岐の南東海岸に位置し，白砂青松に包まれた風光明媚な海浜空港である。

壱岐は，空港が位置する石田町の他，郷ノ浦町，勝本町，芦辺町の４カ町からなり人口４万人，面積139 km²のなだらかな丘陵地からなる島である。

産業は農業を主とし，ほぼ全島耕地化され，水稲，葉タバコ等の栽培と肉用牛の飼育が盛んであり，海岸線は屈曲に富み天然の良港が多く，沿岸は好漁場に恵まれていることからイカ釣り，一本釣り等の漁業も盛んである。

古くから朝鮮半島と九州を結ぶ海上交通路にあたり，大陸文化の流入の中継地として栄え，島内には遺跡・史跡が多数存在し，鬼の岩屋と呼ばれる巨石を組み立てた古代の横穴式古墳，元寇時代の史跡等が著名である。また，壱岐対馬国定公園の一角を占め，玄海灘の風と波によって造形された左京鼻，猿岩，鬼の足跡などの自然景観や，筒城浜，大浜，錦浜などの白砂の海水浴場にも恵まれ，民宿を中心とした観光産業も盛んである。

本土への連絡はフェリーでは博多へ２時間30分，対岸の佐賀県呼子町へ１時間10分を要し，さらに高速船では博多へ１時間30分を要している。

壱岐空港は昭和38年から建設工事に着手し，昭和41年７月滑走路1,200mで開港した。

当初は長崎航空(株)のＤＣ－３型機により壱岐～福岡間を不定期運航していたが，翌42年12月全日本空輸(株)に運航を移管し，機材もフレンドシップ機に変更された。

その後航空旅客の増大に対処し滑走路の嵩上げ，改良，エプロン拡張，夜間照明施設の整備等を行い昭和47年４月よりＹＳ－11型機が就航している。

路線は昭和52年12月壱岐～長崎間，昭和55年５月壱岐～対馬間が長崎航空(株)の不定期便により運航開始されたが，壱岐～対馬間は利用者の減少により昭和61年に廃止に至っている。なお，壱岐～福岡路線は昭和55年４月全日本空輸(株)より日本近距離航空(株)に運航が移管された。

なお同社は昭和62年４月，「エアーニッポン株式会社」に社名を変更した。

当空港の利用状況は，福岡空港との間にエアーニッポン(株)によりＹＳ－11型機で４便，長崎空港との間に長崎航空(株)のアイランダー機（乗客９名）により４便運航されており，所要時間はそれぞれ25分，35分であり，年間旅客数は11万人となっている。

一方，ターミナルビルは，「壱岐空港ターミナルビル株式会社」（昭和40年１月設立）が，昭和40年11月に開館させた鉄筋コンクリート造平屋建のビル（388 m²）があり，今日に至っている。

（長崎県土木部空港課）

空港諸元　壱岐空港

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基本事項 | 空港名 | 壱岐空港 | | | | 種別 | 第三種空港 | |
| | 設置管理者 | 長崎県 | | | | 供用開始年月日 | 昭和41年7月10日 | |
| | 空港の位置 | 長崎県壱岐郡石田町 | | | | | | |
| 運航状況 | 年間着陸回数（回） | 民間機 | 2,831 | その他 | 61 | 計 | 2,892 | 昭和61年（暦年） |
| | 年間旅客数（人） | 国内線 | 110,429 | 国際線 | | 計 | 110,429 | |
| | 年間貨物取扱量（トン） | 国内線 | 266 | 国際線 | | 計 | 266 | |
| 基本施設 | 空港敷地面積（ha） | 滑走路 | | 誘導路 | | エプロン | 運用時間 | |
| | 20 ha | 長幅 1,200m× 30m（02－20） | | 長幅 74m× 18m | | 7,700 m² | 9：00～17：00 | |
| ターミナル諸施設 | ターミナルコンセプト | フロンタル方式 | | | | | | |
| | 旅客ターミナルビル | 388 m²，一層方式 | | | | | | |
| | 駐車施設 | 3,007 m²（75台） | | | | | | |
| | 貨物取扱施設 | | | | | | | |
| アクセス | 石田町3Km（バス7分），郷ノ浦町10Km（バス25分） | | | | | | | |